

地主勝己さんを悼み 生前に感謝

東京秋工会 副会長
加賀谷 健治
(昭和36年電気科卒)



地主勝己さんが平成31年2月7日にご逝去されました。

昨年12月に肝臓病で腹水が溜ったため入院し、それから僅か1月半でした。ほんの2週間前に自宅療養しているところにお見舞いしたときには、足が弱ってしまったと嘆いていましたが、亡くなるとは思いもしませんでした。

心からご哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。

地主さんは秋田市豊岩で生まれ昭和37年秋田工業高校土木科を卒業し鹿島建設に入社し数々の工事実績を残しました。多忙な中で日本大学理工学部土木科2部に通い卒業しました。成績優秀で後に国士舘大学の講師を務めて後進を育てました。



ゴルフ同好会
2014年 第46回ゴルフコンベン団体戦優勝
地主 勝己(左)
右は同組で回った 染谷厚子さん(S47K)

鹿島建設退職後は、大木建設、大綱建設を経て平成28年には(有)ランドオーナーオフィスを設立し生涯現役を通しました。

またボランティアとして、東京秋工会副会長、地元町内会の役員そして地元多摩市の白山神社の氏子総代などを務め、まさに八面六臂の大活躍の人生を謳歌し突然旅立ってしまいました。

地主さんは人との付き合い方、周りを和やかにさせる周辺に対する気遣い、豊富な話題、秋田弁丸出しの話し方など、処世術がうまく人生の師として尊敬しておりました。

地主さんは私と同じ多摩市鶴牧に住んでいたため特に親しくお付き合いをさせて頂きました。私より1か月遅れの4月生まれで1年後輩ですが、先輩のようにいろいろ気を使って頂き、東京秋工会懇親会の後は毎回自宅までタクシーで送ってくれました。大変お世話になり感謝に堪えません。

東京秋工会の役員会では、地主さんの秋田弁丸出しの話がとっても面白く周りは笑いが絶えない状況でした。

私が会報KANASAの編集長をしていたので、2008年Vol.16に「私の東京秋田工業ライフ」の題で東京秋工会の数々の同好会などの活動を紹介してもらいました。

しかし、地主さんに期待した面白い特徴があまり出ていなかったため、私は日頃秋田弁で周りを笑わせている話しを文章にしたいと思います、注文しました。そして、2009年Vol.17から「私の秋田弁ライフ」の掲載が始まりました。

秋田工業高校を卒業し、すぐに配属された新宿の粗末な現場事務所兼宿舍生活から始まった会社人生は、その後、数々の工事現場に配属され、その時々遭遇した失敗や難局を持ち前の気転で乗り越え、そのバイタリティ溢れる生き様は、高度経済成長期に同じような経験をした同窓生の共感を得るものでした。

やや難解なひらがなの秋田弁は郷愁を誘い、仕事の後の飲み会や現場周辺住民融和対策でのエピソード、少し色っぽい話、特に印象深い汚水管工事での糞尿を全身に浴びた事件など、毎回面白い話が続きしました。



詩吟同好会：母校百十周年祝賀会
右3人目

この連載を始めてからは、東京秋工会の会員だけではなく秋田出身の他校の多くの人たちからも、「会報KANASAが送られるとまず地主さんの「私の秋田弁ライフ」から読み始める」との声が寄せられ、名物連載になりました。

それから、2018年のVol.26まで10年間掲載が続きました。今年はどんな展開になるのか楽しみにしておりましたが、もう読むことが出来なくなり本当に残念です。



釣り同好会：H29年久留和港
右から2人目

地主さんは、2016年Vol.21の「私の秋田弁ライフ」の中で「この4月で70歳になります・・・5～6年遊んで77歳位でピンピンコロリとあの世に旅立ちたいと思っています。」と述べておりました。実際に、思い通りの人生を送られたすごい人でもありました。

地主さん安らかに眠ってください。・・・と言っても、あの世でも忙しく大活躍されているのではないかと思います。

繋げる可能性。
未来のために。



株式会社 KM

代表取締役 伊藤幹夫 (昭和46年建築科卒)

バイリンガルプリスクール
「すくすくワールド」
www.sukusuku.com

幼児から大人の英会話
「東京パスポート学院」
www.gakuin.co.jp

バイリンガルアフタースクール
「プラスアップ」
www.plusup-kids.com